

「尿路上皮癌における予後あるいは再発予測マーカーの後ろ向き研究による検討」のお知らせ  
とお願い

腎盂・尿管癌や膀胱癌といった尿路上皮癌では、特異性の高い診断マーカーや予後あるいは再発を予測する有用なマーカーの発見が課題の 1 つとされています。尿路上皮癌の早期診断率は尿細胞診や各種画像検査で上げられるものの、術後の予後・再発の予測は手術で得られた病理診断結果をもとに判断するしかないのが現状です。

近年、neutrophil-to-lymphocyte 比 (好中球/リンパ球比) や platelet-to-lymphocyte 比 (血小板/リンパ球比) のような全身性炎症性反応症候群 (SIR) マーカーが、種々の癌腫において進行・進展に重要な役割を果たしていることが報告されるようになりました。同様に、尿路生殖器癌においても、筋層浸潤性膀胱癌や転移性腎細胞癌症例におけるこれら SIR マーカーの、予後予測マーカーとしての有用性に関する報告例が散見されますが、SIR マーカーはそれら以外にも、eGFR 値、CRP 値、血清アルブミン値、血清アルカリフォスファターゼ値あるいはこれらの組み合わせ等で多岐にわたり、既存の臨床データを使用して解析することで、新たな SIR マーカーを発見出来る可能性があります。新規の症例から得られた臨床データを用いた前向き研究と比較すると、短時間で有用な知見を獲得出来る可能性も大いにあるため、今回我々は、後ろ向きの研究で尿路上皮癌における、SIR マーカーを含めた予後あるいは再発予測マーカーを検討することにしました。

データ解析は防衛医大泌尿器科において 2007 年 1 月 1 日から 2017 年 3 月 31 日までの間に尿路上皮癌に対する手術 (開腹手術、腹腔鏡下手術、経尿道的手術全て含む) が施行されており、病理組織学的に尿路上皮癌と診断された症例を対象とし、約 700 症例について検討します。

本研究は、研究のために患者さんから検体を採取したり投薬をしたりすることではなく、これまでの外来及び入院治療での既存資料のみを用いる研究です。患者さんの臨床病理データは ID 等の個人情報とは無関係な番号付与による匿名化された状態で管理され、その他の通常診療データと同様にプライバシーが保護されます。また、2017 年 4 月以前に防衛医科大学校病院泌尿器科で尿路上皮癌に対して手術が行われた方で、御自身の治療経過等臨床データを研究に使わないで欲しい、という御希望があれば下記連絡先まで御連絡頂けますようお願い致します。

なお、個人データの研究使用への拒否の意思を表明されても防衛医科大学校病院泌尿器科における診療には全く影響がなく、いかなる意味においても不利益を被ることはありません。

連絡先: 防衛医科大学校病院泌尿器科

黒田 健司

Tel: 04-2995-1211(内線 2392)